

第34次 第5回  
宮城県社会教育委員の会議  
会議記録

平成29年2月14日(火)

宮城県教育委員会

### 第34次（第5回）宮城県社会教育委員の会議 記録

- 日 時 平成29年2月14日（火） 午後1時30分～
- 場 所 宮城県自治会館 208会議室
- 出席委員（11名）
  - 相澤委員 伊勢委員 齊藤委員 佐々木淳吾委員
  - 佐々木とし子委員 澁谷委員 杉山委員 鈴木正博委員
  - 田中委員 千葉委員 星山委員
- 欠席委員（4名）
  - 坂口委員 鈴木孝三委員 中路委員 星委員
- 事務局 新妻生涯学習課長 菅原社会教育専門監 鹿野田副参事兼課長補佐 山田生涯学習振興班長 杉山社会教育推進班長 石塚協働教育班長 上原社会教育支援班長 吉田社会教育支援班課長補佐 丹野社会教育支援班主任主査

（司会；上原社会教育支援班長）

・皆様、こんにちは。若干、定刻よりも早のですが、伊勢委員は遅れて来られるということで、皆様お揃いになりました。ただいまから、第34次（第5回）宮城県社会教育委員の会議を開会いたします。

なお、情報公開条例第19条によりまして、県の附属機関の会議につきましては原則公開となっております。本会議につきましても、公開により審議を進めさせていただきます。

本日、坂口委員、鈴木孝三委員、星委員、中路委員より、欠席との連絡が入っております。

それでは、早速、議事に入らせていただきます。以後の進行につきましては、議長にお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

（澁谷議長）

・改めまして、皆さん、こんにちは。暦の上では立春も過ぎまして、日の出が早くなったなどという感じが少しずつしてくる昨今でございます。

今朝ほど、佐々木淳吾委員さんが出演なさっている『ウォッチン！みやぎ』を拝見させていただいて、「ああ、そうなんだな」と思ったのは花粉症。花粉症の人が30%を超えて、宮城県が東北6県の中でダントツで多いと。その原因を分析されていたようでしたが、強風の日が多いからではないかということでお話しされていました。いずれにせよ、そのような話題が出てくるというのは春もそう遠くはないんだなということを感じたところでございました。

さて、報告というか、連絡という形になるのでしょうか……。

1月27日に、ホテル白萩で県の市町村教育委員教育長研修会というものがございました。私も出席させていただいたのですが、その折りに新妻課長さんのほうから第33次社会教育委員の会議の意見書についての御説明、そして第9次県生涯学習審議会答申の説明がございました。大変厳しい時間の中でしたが、あのような形で課長さんのほうからお話をいただくということ、周知されるということは、メンバーの一員として大変有り難く感じたところでございます。いろいろな協議会、このような場で話した結果が周知できかねるということも指摘されている中、短時間の大変厳しい中でも御説明いただいたということに、改めて感謝と御礼を申し上げたいと思いました。

もう一つ。その中の文部科学省からの説明の大きな柱として、今日の話と直接的あるいは間接的に絡んでくるかもしれない来年度の努力点、「コミュニティスクールの推進」について力説されておりました。中身は資料の簡単な説明だけなんですけど、私たちのこれからの話し合いに少なからず影響されると思うことは、『「次世代の学校・地域」創生プラン』ということ。そして、「地域・学校協力本部」なる言葉が出てきました。もう一つ気に掛かったのは、「学校を核とした地域づくり」という言葉。正直言って私は違和感を覚えなくもありませんのですが、そのようなことが文部科学省の大きな事業の柱として、これから具体的な形で取り組まれると。いずれコミュニティスクールで事業を推進する。おそらく、これから宮城県にも、その事業に取り組みなさい、取り組んでいただきたいというアクションがかかってくるなと思いつつながらお話を伺っておりました。私たちが縷々話し合いをしてまいりました「人づくり」あるいは「地域づくり」というものに、大きな影響あるいは（大きく）絡むものがこれから出てくると思いつつながらお話を聞いておりました。必要に応じて、事務局側から情報提供がされると大変有り難いと思います。

長い話になりました。

さて、いよいよというか、とうとうというか、審議テーマを決定することが今日の大きな議題であります。委員の皆様方から御忌憚のない意見を出していただきまして、さらに前に進むことができますよう御尽力を賜りたいと思います。今日もよろしく願いいたします。

それでは、本日の会議の議事録署名委員2名を指名させていただきます。第5回の議事録署名委員につきましては、千葉正博委員と……。

（事務局；吉田社会教育支援班課長補佐）

- ・ 中路委員は欠席ですので、星山委員にお願いしたいと思います。

（澁谷議長）

- ・ では、中路委員さんは欠席のため、星山委員さんをお願いいたします。

次に、傍聴人の取り扱いについて御説明申し上げます。

本会議の傍聴につきましては、審議会等の（会議の）公開に関する事務取扱要綱が定められておりますが、本日の傍聴希望者について報告願います。

(事務局；丹野社会教育支援班主任主査)

- ・本日、傍聴の方はおりません。

(澁谷議長)

- ・はい、分かりました。

なお、審議会等の会議の公開に関する事務取扱要綱第8条により、公開した会議の資料及び発言者を明記した会議録につきましては、県政情報センターにおいて、3年間、県民の方々の閲覧に供することになっております。

それでは、さっそく「議事」に入ります。「イ 今後の審議計画について」です。事務局から説明をお願いいたします。

(事務局；吉田社会教育支援班課長補佐)

- ・では、資料1を御覧ください。

第5回となる本日の会議は、これまでの審議内容を基にしながら、第34次宮城県社会教育委員の会議審議テーマを決定させていただければと考えております。テーマの決定を受け、審議の柱や深め方について御協議いただきたいと思っております。

年度が替わって第6回会議では、テーマについての審議を深めるために、例えば意識調査の内容等について御審議いただきたいと考えております。

第7回には、その調査結果を参考に、テーマについての御審議をいただきたいと思います。また、現地聴取調査など、追加の調査についても御審議いただきたいと思っております。

8回目以降は、本会議から提出いただく意見書の成文化に向けて御審議いただきます。成文化に向けて、場合によっては小委員会の実施を検討したいと考えております。

以上、「会議・審議計画」について御説明いたしました。よろしく申し上げます。

(澁谷議長)

・ただいま事務局から説明がございました。資料1を御覧になっていただき、進め方、審議の計画につきまして、御質問あるいは御意見等があればお願いいたします。

よろしいですか。早いものですね、第5回ということでお話がございました。

それでは、「ロ 審議テーマについて」に移ります。「審議テーマ（案）及び設定理由について」を、事務局から説明願います。

(事務局；吉田社会教育支援班課長補佐)

- ・それでは、資料2を御覧ください。

第4回の会議で、審議テーマについては議長・副議長預かりとなりました。事務局、議長、副議長で検討し、審議テーマ（案）を「世代を超えて紡ぎ合う みやぎらしいコミュニティ

づくり」,サブテーマを「地域を担う人づくり・人つなぎ」と設定させていただきたいと考えます。皆様に事前にお送りした資料に修正を加えたものが,本日配付した資料となります。では,説明をさせていただきます。

「審議テーマ設定の理由」といたしまして,1は「テーマ(案)の事務局としての押さえ」です。「世代を超えて紡ぎ合う」とは,繭の細い糸が何本も集まり糸になり,その糸が絡み合っていてやがて新たな布になっていくように,多くの世代が思いを寄せ合い,知恵を出し合い協働していくことによって,地域が活性化していくことと捉えました。

「みやぎらしいコミュニティづくり」とは,今,震災により崩壊してしまった地域コミュニティの構築,再生が求められています。震災を機に老若男女が改めて自分の地域への思いを強くしています。そこで,その思いを大切に,世代を超えて紡ぎ合う取組,地域課題の解決や新たな活動の創出が県内各地に広がっていくことが「みやぎらしいコミュニティ」と考えました。地域への思いをもつ人材の活かし方やその思いをどう紡ぐことができるのか,そこに社会教育の役割があると捉え,「みやぎらしいコミュニティづくり」としました。

サブテーマの「人づくり」「人つなぎ」とは,人が地域への思いを強くするために何ができるのか,地域に点在する地域への思いをもつ人をつなぎ,広げていくための社会教育の役割を改めて探ることと捉えました。

続いて,「2 これまでの会議から」です。

1回目から3回目までの会議では,社会教育は,地域づくりをはじめとした地域課題の解決に対する根っこ部分になる非常に重要なものであるという認識を共有し,人づくりが大切だという方向性について確認しました。

それを受けて②の第4回会議では,図1のようにテーマに結び付く多くのキーワードを出していただきました。サブテーマにある「人づくり」「人つなぎ」は,「発掘・つなぐ・広がる」というキーワードから導いたものです。

4回目の会議を「ヒト」「モノ」「コト」で分けてまとめてみました。

「ヒト」に関わることとして,世代に関わらず,点在する地域人材をつなぎ,それぞれの地域への思いを紡いで,ひとつの方向性を持たせることが重要である。「モノ」に関わることとして,出会いの場,互いに学ぶ場,多様性を整理する場など,どこでも存在し,集える拠点が必要である。「コト」に関わることとして,社会教育の専門性と社会教育の概念外の要因を結びつけてプログラム化,しかけづくりをして,地域住民の意識付けにつなげることが重要であるとまとめられます。

ここで言う社会教育の専門性と社会教育の概念外の要因は,4回目の会議で出された指定管理者制度の普及などにより,社会教育の専門性に希薄化している部分があり,専門外のニーズが増えていることと捉えたいと考えます。第4回会議で出された意見を整理し,キーワードから審議テーマ(案)につなげたものでございます。

次に「3 現代的な課題から」です。地域全体で子どもを育む仕組みを新たに構築する必要があることから,世代を超えて人がつながることが大切である。また,子どもの貧困問

題も表面化していることから、様々な人に寄り添う社会教育の必要性があり、そこからテーマ（案）につなげました。

さらに「4 宮城県の社会教育の現状と課題」からです。「平成27年度市町村別社会教育事業実績調査」及び「平成28年度市町村社会教育行政及び社会教育施設（公民館）に関する調査集計結果」、「社会教育施設（公民館）の現状」、「東日本大震災の発生」、「第2期宮城県教育振興基本計画」の4つの視点から、現状と課題について考えました。これをまとめると、「地域づくり」、「復興」、「絆」など、それらを担っていく人（人材、人財）の育成が重要であるという考えをテーマに据え、みやぎの社会教育はどうあるべきか探る観点から、本テーマ（案）につなげております。御審議よろしくお願いたします。

以上でございます。

（澁谷議長）

・ただいま事務局から説明がございました。今日の話し合いの大きな核となるものは、テーマの設定ということでございます。事務局がこのテーマに至った理由ということで、これまでの会議から、現代的な課題から、宮城県の状況というようなことが話し合われ、そのことからテーマ案を設定したということでございます。

なお、これにつきましては、議長と副議長の預かりという話でした。一堂に会することはできなかったのですが、先週、事務局のほうからお話をいただいて、事前に話し合いをして、今日の日を迎えたということをお話ししておきたいと思っております。

まず、テーマでございます。文言も含めて、率直な御意見を承ればというふうに思います。

（齊藤委員）

・どなたもいらっしやらないのなら……。

（澁谷議長）

・はい、どうぞ。齊藤委員さん、お願いたします。

（齊藤委員）

・私は今期から委員になりましたので、「審議テーマ設定の理由」というものが、どの程度その後の議論につながってくるのか分からない部分があるのですが……。

1 ページの「みやぎらしいコミュニティづくり」の3行目に、「世代を超えて紡ぎ合う取組、地域課題の解決や新たな活動の創出」とあります。創出ということはもちろん大事なんですけど、すでにある取組、萌芽というか、芽というか、そういったものは果たしてどうなるのか。文章になってくるときに、背景としてすでにあるもの、芽とか萌芽というものをどう考えるのかということが気になる部分でありました。

それから2点目です。『人づくり』『人つなぎ』とは」の1行目から2行目のところです。「地域に点在する地域への思いをもつ人をつなぎ」と。地域への思いをもつ人、地域に思いを持っている人が震災なんかによって増えてくるというのは、当然ある現象だと思うのですが、うがった見方をすれば、無関心あまり関心を持っていない人もいます。地域への思いをもっている人をつなぎ、ネットワークを張っていくことはもちろん大事だと思うのですが、いま現在、そういう一歩が踏み出せていない人たちへすそ野を広げることどう考えていくのか。それをここに盛り込んだほうがいいのかどうかという点です。

それから2ページ、裏側になります。これは前回どういう議論がされていたのか、2カ月くらい前のことなのでもう頭のどこかに行ってしまうのですが……。

②番です。「ヒト」「モノ」「コト」と整理された点で、「ヒト」のところの「ひとつの方向性」という言葉、「モノ」のところでは「多様性を整理する場」とあります。この方向性などは果たして一つなのか。これがどういう文脈で入れられたかは抜けてしまっているので何とも言えないところなんです。果たして方向性は一つなのか。あるいは、「多様性の整理」で、多様性は果たして整理すべきものなのか、どうなのかという点。これを字面として見た場合に、若干気になる部分としてありました。

以上です。

(澁谷議長)

・今、齊藤委員さんのほうから、言葉、字面として見るということが出ましたが、正直言って、2の資料については今日初めて文として見ました。「世代を超えて紡ぎ合う みやぎらしいコミュニティづくり」ということで事前に事務局と話し合いをしたときに、「『世代を超えて紡ぎ合う』というのはどういうイメージで、「みやぎらしい」とはどういうイメージかまとめてお示してください」というお願いをして、このようなペーパーが出てきたわけです。この辺の文言については、いま齊藤委員さんから御指摘のあったようなことで、もう少し整理しなければいけないところがあると思います。

その辺はよろしいですか。いま御指摘いただいたこと、あるいはいまの齊藤委員さんのお話について、あるいは言葉の押さえといったことについて、お考え等があればどうぞお話しただければと思います。

(星山委員)

・今からこういうことを言うと、まとまりかけたのをグジャグジャにしそうでちょっとためらっていたのですが……。

「みやぎらしいコミュニティ」で「世代を超えて」ということを考えるときに、ここにあるもの以外に、具体的に出てきていない2つのポイントがあるのではないかと思います。

1つは、伝統芸能も含めた文化の視点だと思うんです。震災以降、各地域で復興を遂げていこう、新しく地域づくりをしていこうと活動した。そのきっかけづくりとして大きかった

のは、やはり伝統芸能。これが各地で起こった。マスコミさんもいろいろな浜を取り上げたりしておられましたよね。それはまさにみやぎらしい伝統であるし、それがまた世代を超えてつながっていく。そこに独特なパワーが生まれてくる。そのことをどういうふうに位置付けていくのか、というのがあるような気がするんです。ただ単に伝統文化だから守るということではなくて、そういう活動を通じて人々が再びつながっていく。子どもたちでも、そういうものを知った人たちは地域に目を向けていってくれる。それは前回、33次のいろいろな調査の中でも具体的に出てきているわけです。

そういうものを引き継いでいく意味でも、伝統文化も含めた文化の視点というものをどう入れていったらいいか、『みやぎらしいコミュニティ』の中にうまく入れられないか』というのが1つです。

それからもう1つは、社会教育で人つなぎをしていくことを考えたとき。資料3か4の中に、公民館の調査が出てきます。自治公民館は地域によって名称がいろいろなので、何と書いていいかわからない。県南のほうであるところに行ったときには「公会堂」と。公会堂というからどんなにでっかいのかと思ったら、集落の集会所だった。本当に呼び方はいろいろ、一括りには言えない。

その社会教育的に言う自治公民館が、今回の震災のときにもものすごく大きな役割を果たしているんです。単に集会所で、代表者が鍵を持っていただけのところもあれば、南三陸町なんかだと契約講と結び付いて、共有財産も持っている。それをベースにして、自治体より先に自分たちで「この土地があるから、ここに仮設を造ろう」とか、自分たちでいま何が必要か考えて、浜単位で震災の記録をきちんと作っていくとか。仙台市内のある地域でもやっていますけど、各地でそういうものがあるわけです。

集落ごと、浜ごとのコミュニティづくりというものを考えていったときに、震災の被害を受けたところだけではない。それこそ澁谷先生のお膝元の大崎市もです。岩出山なんかに行ってみると、集落ごとにそういう施設がある。そこで元気だといろいろつながりが出てきてという、実践例がたくさんあります。そういう意味では、もうちょっと狭い範囲で（考える）。

自治公民館といった場合に一つ困るのは、教育委員会の枠を完全に超えているんですよ。管轄が総務課だったり、別のところだったりする。でも、中身を見ていくと、まさに自治公民館だというのがたくさんあるんですよ。だから、教育委員会を通じてでは拾えない、キャッチできないもので、地域の中にあるもの。社会教育のこれまでの範疇を超えたものになってくるかもしれないんですが、そこまで視点を広げてやっていかないと、ここで言っている「世代を超えて紡ぎ合うコミュニティづくり」というものに対しての提言はしにくいのではないかという気がします。

その2点をこの中にうまく入れられたらいいなと思って聴いておりました。

(澁谷議長)

・ありがとうございました。

いま星山委員さんのほうからお話がありました「みやぎらしいコミュニティづくり」ですが、事前の話の中で私のイメージにこの「みやぎらしい」という言葉が出てきましたが、この言葉は「みやぎらしい協働教育」ということで、生涯学習課ですでに使われていた言葉だったんです。これまでずっと、一般的、全国的あるいは現代的な課題もこの場で話し合いがされてきましたが、震災というものを考えたときに、宮城県の特別な課題、宮城県でなければ、われわれでなければ対応できないようなものが各委員さんの話の中に色濃く出てきていて、そこで「みやぎらしい」という言葉を使わせていただければということで、事務局のほうとお話ししたところでした。

それで、この枠の中、いま星山先生、齊藤先生から出たようなことについては、もう少し具体的に膨らませたほうがいいかもしれない。今出た伝統芸能も、みやぎらしいといえばみやぎらしいものに入ってくる可能性がある。それから、自治公民館というもの。私どもの近く、東大崎地区の方は「公会堂」と言うんです。公会堂と言うから「すごいところなの？」と聞くと、さもない平屋の建物。ひょっとしたら「みやぎらしい」というくくりの中にそういったものが入っていて、そういうところが非常に力になってくる可能性があると思いながら、改めてお話を伺っていました。

「みやぎらしい」という話の中で、齊藤委員さんから出たのはすでにあるもの。私も気に掛かっていたんです。新たなものもちろん大事ですが、すでにある、取り組んでいる、やっている、そういうようなものもあるはず。やっているとします。そういったものにもこの提言の中で切り込んでいくということが、「みやぎらしい」ということにつながるかもしれないということでお話を伺っていました。

いずれにせよ、「みやぎらしい」という言葉の押さえの中で、今出た事柄などを組み込んでいけば、なおしっかりとしたカラーが出るかなと思ってお話を伺いました。

どうぞ、委員の皆様……。はい、お願いいたします。

(相澤委員)

・テーマを見たときに「ああ、そっか」と、何となくわかったつもりではいたんですが、テーマを決めるに当たってのいろいろな理由を拝見したときに、私の中ではあまりにもボリュームがありすぎる。どこをポイントと捉えていけばいいのか、整理ができなかった。あまりに多くの盛り込みがあって整理ができなかった。

例えば、震災復興の地域とか、復興をある程度メインにした人づくり。これは再生のところを調査しながら持っていくのか、それともそれ以外のいろいろなところに広げていくのか。

今後のことだと思うんですけども、そういう調査の部分になったときに、もっともっと絞り込みをしていかないと、何を調査したくて、どういう答え、どういう方向に意見書を持

っていくのが全然見えない。どんどん散らばっていつているだけで、なかなか見えない。ストーンと落ちなかった。あまりにもいっぱいいろんな視点がある。すごくいい視点がいっぱいあるんですが、きちんとした意見書を求めるならば、「ここの部分を」という絞り込みがあると分かりやすく、これから先、動くことができると思いました。

(澁谷議長)

・ありがとうございます。

言葉として、字面としてはストーンと入るのですが、これから先の話、具体の形で「どのような提言？」となったときに、ある程度絞り込んでいく視点が大事になってくるのではないかと。そういうこととお話を聞きました。

はい、どうぞ。杉山委員さん。

(杉山委員)

・全体のテーマということなので、具体的な細かいことが反映されているわけではない。大ざっぱなイメージしか沸かないんですけども、これから話を進めていくに当たって「みやぎらしいコミュニティ」ということを考えたときに、仙台みたいな都市部や富谷のような振興住宅地のコミュニティと、農村部や周辺部、過疎化が進んでいるところのコミュニティでは、まったく性質が違ったり、抱えている問題も違う。テーマは同じでもいいんですけど、全体を一括りに考えられない部分があると思うんです。

石巻でも、あけぼのや蛇田のようにどんどん人が集まっている地域と、私が住んでいる農村部、山の麓のほうとはまったく違う。例えば地域への思いということ一つ取っても、こっちは思いを持っている人はいるけれども、過疎化で思いを持っている人が減ってきている。都市部、団地のほうは、そもそも思いが希薄な人だったり、よそから来てまったく思いを持っていない人だったりする。思いということ一つ取ってもそういう違いが出てくるので、今後考えていくときに、具体例は少し分けて考えなければいけないと思います。

(澁谷議長)

・はい、ありがとうございました。大きな難しい問題ですね。

テーマの文言はもちろんありますけれども、テーマそのものについてはいかがでしょうか。今日はできる限りテーマを固めることになります。今はテーマそのものに関わること、テーマ設定理由についてもさまざまな御意見を出していただいているところでございます。

はい、どうぞ。

(佐々木淳吾委員)

・私は「世代を超えて」というところです。今後、審議を経て意見書を作っていく。文章にするのか、言葉で入れる形にするかはさておき、心構えとして持っておいたほうがいいと思

うことが一点ございます。それは何かというと……。

いろいろなところ、主に被災地でお話を伺うと、「うちの末の子どもは震災を知らないんですよ」と。そういう子たちが大分増えてきたんです。また弊社の話になってしまいますが、震災を経験していない記者、アナウンサーが実際に報道の現場に出て、いろいろお話を伺っている。考えてみると、あと5年もすれば震災後に生まれた子どもたちが、自分の意思で地域活動に参加するような年代になってくると思うんです。ですから、「世代を超えて」と一言で言ってしまうとあれですけど、戦前と戦後があるように、宮城県においては震災前と震災後、経験の有無でそこに大きなギャップ、断層があると思うんです。われわれの出す意見書を今後の宮城の社会教育に活かされていくものにするのであれば、そのところも意識をする。一人ひとりの心構えとして持ちつつ、調査なり審議なりをしていったほうがいかなというふうに感じました。

(澁谷議長)

・ありがとうございます。「世代を超えて」ということでお話がございました。

「紡ぎ合う」という言葉はいかがでしょうか。これは確か前回、ただ人と人とが交流したりするということに留まらず、もう少し深くということで、ある委員さんのほうから「たとえば『紡ぎ合う』という言葉はどうでしょうか」という御提案があり吟味・検討された言葉ではありますが……。

では、田中委員さん、お願いします。

(田中委員)

・みんなで何かをやろうとしたときに、ただ集まってもできない。紡ぎ合おうと意識する。集まった人たちが意識して、協力して、何かをつくろうとするときの強さみたいなものも表しているから、「紡ぎ合う」というのはいいと思いました。

それから、先ほど「審議テーマのボリュームがありすぎる」というお話が出ていましたけれども、杉山委員がお話したように、地域、地域でいろいろありますので、都市部の代表とか、山間部の代表とか、沿岸部の代表とか、4つか5つをリストアップする、そこで、うまくコミュニティをつくれたところはどのような形でつくっていったとか、事例を分けながら挙げていくと、その地域に近い状況のところを参考にできるということを考えました。

(澁谷議長)

・ありがとうございます。

はい、どうぞ。

(齊藤委員)

・「みやぎらしい」という言葉をどう考えるかということだと思うんです。生涯学習課で使

われていた言葉として、もうすでにある程度流通していると思うんですけども、2つくらいの側面、軸があるだろうと思います。

1つは、先ほど星山委員のほうからありました伝統芸能。より歴史的な部分です。さらには、先ほど佐々木委員からありました震災。もちろん、この2つだけに集約することはできないと思いますけれども、ある種の時間軸で見たときの伝統芸能であったり、3・11であったり。そこから将来に向かって行くという時間の軸があると思います。

もう1つは、先ほど杉山委員が仙台・富谷のような都市部もあると同時に、周辺部、過疎もある。ある種、空間的なことなのでしょうか。もちろん、それだけではなくて、海があって、山があってと、自然に制約されてくる側面もあると思うんです。

おそらく時間軸と空間軸、この2つで「みやぎらしいコミュニティ」というものを考えていかなければいけないんだと思うんです。今田中委員がお話しされた点でいくと、仮に調査をする、アンケートを取るにしても話を聞くにしても、ある種の時間と空間のマトリックスの中で対象を落とし込んでいく。それですべてが把握できるわけではないのですけれども、代表的なケースには目配りができるかなということを思います。

(澁谷議長)

・ありがとうございます。「みやぎらしい」ということにつきまして、大変分かりやすい一つの方向性をお示しいただきました。

「みやぎらしい」ということが一つ出てきましたけれども、どのようなものを皆さんはイメージされますかね。いま時間軸と空間軸ということで、とても分かりやすいお話をいただいたところです。この方向で進むとすると、「みやぎらしい」っていったいどういうことなのだろうということの色濃く出なければいけないものになると思います。

今までの話としては、星山委員さんがおっしゃった伝統芸能が一つ考えられるのではないかな。あるいは、自治公民館というところに活動する人たち。それと、都市とか沿岸部、農政部というような切り込み方。そういうようなことが、これまでお話しされたところです。

こういう困ったときは、佐々木とし子委員さんに伺うことになります。

(佐々木とし子委員)

・あまりにも広い感じがして、今日はここに映像が描けないでいるんですが、その地域の特色、「うちの地域にはこういう良さがある」みたいなものをどう生かしていけるかということが中心になるかと思います。

良さですから、たとえば特産品。「自分のところではこういう物いっぱい採れる。だから、これをPRしていこう」というのを中心に考える。たとえば伝統。中学生とか小学生もやっている伝統芸能を生かしていく。地域によって特性は違ってくると思うんですよ。

それと同時に空間。震災で被災を受けた沿岸と、まったくそうではない、山のほうの地域がある。6年も経つてくると、「うちのほうでは震災はすっかり忘れてる」というような

ところもあると思うんですね。そこで震災をクローズアップしすぎると、山のほうでは「うちのほうはこれには入らないよね」ということがある。捉えやすい何かがないと、そっただけのものになるという感じがして、私の頭の中は本当に漠然としているんです。

震災を機になのか分かりませんが、中学生とか高校生も、地域の中で活発な活動をやり始めているというのをすごく感じています。それをやろうとしている若者たちの思い、地域の人たちが一緒になってそれを育てていきながら、地域起こしをしていこうと。そういうことにこれがつながらないのなかなんて……。素晴らしい意見が出ないんですけど、いま私の頭の中はそこをつなげられないかなというふうに思っているところです。

(澁谷議長)

- ・地域の良さということを切り口とするということですね。

(佐々木とし子委員)

- ・はい。  
もう一つ言っているいいですか。

(澁谷議長)

- ・どうぞ。

(佐々木とし子委員)

・33次では「子どもの参画」というのが出てきて、それが少し動き出している。それも含めて「世代を超えて」というところに持って行けるものになると、「みやぎらしいコミュニティづくり」とつながる。そういうところに持って行けないかなということも考えていました。

(澁谷議長)

- ・ありがとうございます。

今のお話を伺って改めて思い出しました。「世代を超えて」というのはこれまでの話し合いでも出てきたし、前回の意見書の中にも「子どもたちが震災復興に大きな役割を果たした」と記載されていた記憶がございます。前回の意見書に「地域づくりに寄与していける」と力強く述べられていた。私は字面でしか読んでいませんけど、そのような記憶がございます。「世代を超えて」という言葉が出てきた大きな背景は、これまでの話し合い。「子どもの参画」ということが各委員さんの意見の中にあっただけだということを、再度確認させていただいた次第でございます。

そういったことで、「みやぎらしい」という中に「子どもの参画」というものを強く打ち出す。全部ひっくるめてしまうのはどうかと思いますが、「世代を超えて」というものに入

ってくると思います。そういうような中身, 方向性になっていけばいいのかなということを, 佐々木委員さんのお話を伺いながら感じたところでございました。

はい, どうぞ。お願いします。

(伊勢委員)

・前回はお休みして, 今日遅れて申し訳ありません。

私が入ってきたとき, 相澤委員さんが「視点がいっぱいある」とおっしゃっていて, 私はこのテーマを見て「本当にそうだな」と思いました。

テーマをパッと見て, 今回, 34次で大事にしたいことは何だろうと思ったときに, たどり着くところは「コミュニティづくり」だと思ったんです。33次では「子どもの参画」というところ, そこに焦点を当てて, 各地域でどういう取組をしてきたかということ进行调查してきました。この34次のテーマ案を拝見したときには, 「世代を超えて紡ぎ合う」という言葉そのものがどうのというよりも, 世代間でどういうふうに交流をしながらコミュニティづくりをしてきたか。前の部分はいくまで手段だと思うんです。目的ではなくて手段。その上で, 目的として「みやぎらしいコミュニティづくり」がどういうふうにされてきているのかというのを調べたい。それが34次なんだろうという印象を受けています。齊藤委員さん, 皆さんから時間軸と空間軸というお話がありましたが, 「みやぎらしい」とは何なんだろうかといったときに, 私たちが明確に言えることが大事だと思っています。

私もいろいろなところに関わらせていただいていると思うのは, どうしても震災のことは外せない。けれども, 震災に特化するわけでもない。震災で浮き彫りになったところがあると思うんです。それまで地域コミュニティの中で世代間でつながっていたところとか, 何らか社会教育とか。そういう地域がしっかりしていたところは, 震災という有事のときにうまく機能していた。地域づくりが, いざというときに役に立ったことが見えてきたと思うんです。だからこそ, 危機感を持って, 震災後に「これじゃいけないよね」ということで立ち上がって, いろいろな方たちが集まって, コミュニティづくりが始まった地域もある気がするんです。コミュニティづくりを明確にどうしようかという目的の下に, 結果としているんな人が関わり合って, 人づくりがなされて, 人がつながっているということが起きているのではないかと思ったんです。

なので, これを見たとき, 私はまず目的としてコミュニティづくり。そのためにいろんな人が集まり, 結果として人づくりや人がつながるということが起きているのではないかなという解釈で受け取りました。私の中の勝手な解釈ですが, そういうふうに捉えました。要は, 文言の整理がしっかりできるといいなと思います。

(澁谷議長)

・ありがとうございます。審議テーマの文言から設定の理由, そのこのところをもう少しきち

んと押さえて取り組んだらいいのではないか、というお話がございました。

伊勢委員さんも触れられましたが、「みやぎらしい」ということを考えたときに、震災については外せない。しかし、それだけに特化していくのではなくて、もう少し広げる。ただ、コミュニティづくりということ考えたときには、当然、そこを押さえながらというお話が出ました。

前にもお話しした気がするんですが、被災された地区に派遣されている自治法の派遣社会教育主事の先生方、あるいはまだ震災から復興されていない地区の先生方のお話を伺ったときに、私は反省してしまいました。私は内陸に住んで日常を送り、生活の中で震災の話はあまり出てこない。たまにニュースとかで「何年何ヶ月になりました」というのを見ると、「ああ、そうだよな」と。話題として取り上げられ、被災された方のさまざまなお話を伺っていると、「ああ、そうだよな」と。内陸部に生活している人間にとって、震災は身近なものではない。この間お話を伺ったときに忘れつつある自分に気付いて、「これではいけない」と思った次第でした。

そのようなこともあって、「みやぎらしい」ということから震災を外すことはできないだろうということを改めて強く思ったところでした。

私たちのその取り組み方を、具体的にどのように押さえていったらいいかということを考えています。これからこのテーマで行くということで、具体的にどういうふうな構成、組み立てで取り組んでいったらいいか。少し先に進んでしまっている話ですが、テーマと関わってくるのではないかと思いますので、その辺についてお知恵を、あるいはお考えをいただければ有り難いと思います。

伊勢委員さん、お願いします。

(伊勢委員)

・社会教育という観点からすると、私たちは東日本大震災から何を学んだのかというのが根底にあるような気がします。自分たちの地域では震災をコミュニティづくりにどう生かしているのかという観点から見ると、そこからいろいろなことが見えてくる気がしています。そうすると、地域だったり、人だったりという、それぞれの取組が見えてくる。たぶん、その気付いたところから動いていると思うんです。

もしくは、そこに至らなくても、震災ということを通して、それまでやってきた自分たちのコミュニティづくりが間違っていなかったと感じる。間違いと言ったら語弊があるかもしれませんが、自信を持って、さらこれが大事だと。取り組むことの意義を感じた地域もあるのではないかと思います。そういう意味では、震災も学びの一つと捉えることができるのではないかと考えています。

(澁谷議長)

・非常に前向きな、震災も学びというお話がございました。

はい、どうぞ。

(佐々木淳吾委員)

・震災に特化するものではないというのは、間違いないと思うんです。そこを意識するのは大事だと思います。いま伊勢委員がおっしゃったように、震災から何を教訓にしたかということ言えば、これからわれわれが作る意見書が宮城らしいコミュニティのあり方を探ることによって、決して沿岸部に限らず、山だって、川だって、自然と隣り合わせて生きているこの宮城という場所にあって、いつどこで何が起こるかわからない次に起こる天災のときに、強固な力、絆を発揮するコミュニティづくりに貢献していければいいというふうに思います。

きれいな事を言っていますが、まとめると、被災地向けに震災に特化したものを作るのではないけれども、根底にあるのは「ああいうことがあったから、われわれはこういうものを大切に考えましたよ」と。「役に立てていただけたら」という気持ちだと思います。

(澁谷議長)

・はい、ありがとうございました。  
どうぞ、お願いいたします。

(事務局；鹿野田副参事兼課長補佐)

・いろいろな御意見を聞いて「ああ、なるほどな」と思ったので、忘れないうちにお話ししておきたいと思い、時間をお借りいたします。

ずっと「みやぎらしい」とは何だろうと、私も会議の初めから考えていました。やはり、震災を経験して気付いたことが重要だと思っています。伊勢委員さんがおっしゃったのですが、縦、横、斜めという形で日ごろからのつながりが強い地域は震災後に早く立ち直った。これは皆さん、ご存じのとおりです。

要するに、もしかしたらこれから同じような震災があるかもしれないし、別の災害もあるかもしれないし、人口減少でどんどん人が減っていくかもしれない。若者が流出するかもしれない。どういう時代になっていっても、コミュニティがきちんと維持されて、人がそこに住んでいるいきいきとした地域をつくる。それには強いコミュニティでは語弊がある。しなやかなといった意味での強いコミュニティが必要なのではないか。そのためには元に戻ります。縦、横、斜め、いろいろな方向につながっている。人がバラバラにいるのではない。そういうコミュニティが「みやぎらしい」かどうかはわかりませんが、それが宮城が目指すべきコミュニティなのではないかと思います。

その縦、横、斜めのつながりと、「紡ぎ合う」という語感が何となく合うなと思って、いま勝手に考えているところでした。失礼しました。

(澁谷議長)

・ありがとうございました。「しなやか」ということで、一つお話をいただきました。

これまで「みやぎらしい」という言葉について、さまざまな御意見、お考えを出していただきました。「みやぎらしい」という言葉、ストレートにそこにつながるものはないと思いますが、私がイメージしたものの中には例えば「創造的な復興」。生涯学習課が中心になってこの間出された生涯学習審議会答申の中で「東日本大震災を乗り越えて」という生涯学習推進についての方向性が示され、その中で「創造的な復興」という言葉などで具体的に「このような取組」ということが出され、まったくそのとおりだと思いながら読ませていただきました。

それと、宮城県教育委員会でやっている志教育の中にも、「人と関わる」とか、「求める」とか、「果たす」ということで、子どもたちについての教育の方向性が出されている。教育振興基本計画の中では、「家庭・学校・地域が連携・協働して子どもを育てる環境づくり」と出され、あるいは詳しくは分かりませんが、さっき少し触れた文科省のほうでも「地域づくり」ということが出ています。それぞれの担当、首長部局を見ると、ストレートに「地域づくり何とか部」とか、「地域づくり何とかかんとか」というふうに出ている。

ベクトルは同じところを向いているのに、社会教育なら社会教育だけのものしか考えられなくなってしまっている自分がいます。そういったことで、私の希望はこの答申の中に一つ大きな理想郷が描きたいと。ここの審議のテーマとしているような「みやぎらしいコミュニティづくり」というものに関わる教育庁の部署それぞれが、どんなことをやっているのか明らかにしたい。県庁の13階辺りで何かをそろえてやっている、あるいは市町村レベルでたぶんさまざまなことをやっている。どんなことをやっているかということが明らかになって一つのくくりになってきたときに、私たちが今まで話してきた「みやぎらしいコミュニティづくり」というものの提案・提言が一つの方向に流れていく。そうすれば、とてもいいことになるかななんて考えたりしておりました。

これまで震災とか、さまざまなことが「みやぎらしい」ということで出てきました。宮城県でやっているそういったものを一つの形にまとめ上げて、横の連絡が付いたり、付けられたりするような形のものがひょっとしてできたら、「みやぎらしい」ものの一つになるのかもしれないなどと思いながら、お話を伺ったりしていたところでした。

「みやぎらしい」ということにこだわってまいりましたが、「世代を超えて」ということは今までも出てきたように思います。

どうぞ、お願いします。

(星山委員)

・澁谷議長はすごく苦勞しておられるけれども、表現としては「みやぎらしい」で僕はいいのではないかと思います。ただ、「みやぎらしい」と言ってしまうと非常に抽象的。その中身が何なのかというところで、皆さんいろいろな御意見を出していただきたいと思います。

ですから、さっきどなたかがおっしゃったように、「みやぎらしい」という中身のどこかに焦点を合わせて、絞り込みをしていくということなんだと思うんです。今日出たこと、こと、ことというのを具体的に示しながら、「それらをトータルとして『みやぎらしい』と言うんだ」と示してしまえば、そんなに混乱は起きないのではないかという気はするんですけど……。

もちろん、「みやぎらしい」といった場合、ここに出したものの以外にもあると思います。だけど、「一応、ここではこれと、これと、これを『みやぎらしい地域づくり』『コミュニティづくり』『人づくり』と考えるのだ」と。ここでコンセンサスづくりをして提示してはどうでしょうか。

(澁谷議長)

・ありがとうございます。

今星山委員さんのほうから「みやぎらしい」ということについて、これまで出されたことをまとめて、ある程度絞り込みをしていくと。それを共通理解していけばよろしいのではないかという御意見が出されました。

そのような方法を取らせていただくということでもよろしいでしょうか。

(「いいと思います」という発言あり)

では、これについては、今日、この場でしっかりと押さえなくてもよいということでもよろしいですか。

(事務局；菅原社会教育専門監)

・まず、テーマを固めます。

テーマをどのように捉えていくかということにつきましては、委員の皆様からいただいた御意見が非常に参考になりました。「テーマ設定の理由」で事務局としての押さえの資料を出しましたけれども、不十分なところがたくさんあると感じたところでございます。

テーマを基に意見書をまとめていくときは、その文言についてどう捉えるかという社会教育委員の会議としての総意をまず示すべきだと思います。このことについて深める機会はありませんので、今日は「みやぎらしいコミュニティ」ということで、皆さん一人一人のお考えをもっと出していただいて、それを事務局に預けていただいてまとめていく。まとめたものを皆様にまたお示しするようにしたいと思います。せっかくですので、「みやぎらしい」ということにもう少し意見を頂戴できれば、事務局としては大変ありがたいと思っています。ところでございます。

(澁谷議長)

・はい、分かりました。

今お話がございましたとおり、事務局としての押さえについて、多様な御意見を出していただきたいということでございます。

はい、どうぞ。

(佐々木とし子委員)

・震災が起きたときに、そこにいる人たちみんなが力を合わせて乗り越える。私も先ほどのしなやか、強いコミュニティが「みやぎらしさ」という感じがしました。

例えば、今実際にやられている防災の取組であったり、お祭りの取組だったり。それから、地域起こしの取組。「これでいきたい」と言って取り組んでいる地域の取組。例えば、米作りがあるかもしれない。その地域のいろいろな人たちが集まって、「うちの特色はそれだよ」と中学生の意見も入れながらやっている取組。そういうものを出していけたらいいのかなど。

その中心が東日本大震災の経験。しなやかで強いコミュニティがすごく重要なんだと。いろんな人たちが紡ぎ合えるという感じ。私はそんなふうにしたんですけど。

(澁谷議長)

・はい、ありがとうございます。具体的な提言がございました。

どうぞ、たくさん思いを出していただきたいということです。「みやぎらしい」でなくても結構です。「世代を超えて紡ぎ合う」、あるいは「人づくり」「人つなぎ」ということなども言葉として示されておりますので、この辺について感じられることなども出していただければと思います。

はい、お願いします。

(相澤委員)

・震災のことをベースにして考えた話をするのであれば、震災を機に、コミュニティとか人をまとめるようなことを率先してやっていく人が生まれたところが結構ある。震災がなければ普通に暮らしていた人が、震災を機に「何かしなきゃ」と。いろんなことができる人も、何もしなければ普通に暮らしていた。力を持った人が、震災を受けて人を引っ張っていくようなことをしたりというのが結構見える。うちの富谷市もそうなんです。見えている部分があるんです。「みやぎらしい」になるかはわからないんですが、震災があつて人の力が大きく育ってきている部分もあるということを感じています。

あと、コミュニティというのは、ものすごく広くて、深くて、捉えどころのない言葉です。社会教育という観点を見ながら進めていかないと、先ほど委員さんたちが言ったように、どんどんバラバラになってしまう。その部分、社会教育という観点をしっかり捉えながら震災を盛り込んでいくようなつくりだといいと感じました。

(澁谷議長)

・はい、ありがとうございました。そのとおりです。社会教育という観点を常に意識しないと、大変難しい。「コミュニティ」一つ取っても拡散してしまうことになりかねないというお話、本当にそうだなというふうに思いました。

どうぞ、田中委員さん。

(田中委員)

・私は震災のときは一迫にいました。沿岸部の人たちは住むところがなくなった。家が全部なくなったりしてひどかったのを、築館とか一迫の人たちが避難所をつくって受け入れて、そこで何か月間か過ごしました。高校生なんかも支援に加わるなどしましたが、それはその前の岩手・宮城の栗駒が崩れた地震のときに、沿岸部の人たちがいろいろ世話をしてくれたからということでした。

結局、世話をするほう、受け入れるほうのコミュニティ、商工会であったり、役場であったり、いろんなところの組織がしっかりしているから受け入れることができるし、何かあったときに恩返しができる。そんなこともあったなと、今思い出しました。そういうことって、結構あったと思います。

いろんなことというお話でしたので、思い出してお知らせしました。

(澁谷議長)

・ありがとうございます。

だいたいよろしいですか。千葉委員さん、何か。

(千葉委員)

・自分は今地域で活動していて、「みやぎらしいコミュニティ」「地域を担う人づくり」「人つなぎ」みたいな感じのことを見せていただいています。

今はここに住んでいるけれども実は東京から来た人とか、違う県からボランティアで宮城に来ていて、それがきっかけで震災後こっちに住むようになった人たちが中心になって地域づくりをしている。その人たちが、地域の人と関わりを持ってコミュニティづくりをしている。それがどんどん広がって、そこに住んでいる人たちも「この人たちだけに任せておけない」みたいな感じでどんどんコミュニティが広がっている。そういう現状を見せていただいたりしています。

それから、震災は関係なく地域に移り住んだという人たち、その地域とかその人たちが好きになったからコミュニティをしたいということで、いろんな地域活動に参加したりしているという人たちが、最近、増えてきている。移り住んでいる人たちが増えてきたとすごく感じています。

そういうところも「人づくり」「人つなぎ」。自分がそこで生まれたわけではないけれど

も、地域づくりをしたくなる。きっかけは人それぞれ、バラバラなのかもしれないけれども、それはすごくいいことだというふうに感じました。宮城に住む人間として、「みやぎらしい」感じのものがあると、全国に「やっぱり宮城ってすごいな」という感じになっていいと思いました。

(澁谷議長)

・ありがとうございました。「地域づくり」「人づくり」「人つなぎ」ということです。

少し話題が替わるかもしれませんが、この間、地方青年文化祭がございまして、私は大崎のほうに出掛けたくんです。千葉委員さんがおいでになるのかと思っていたら、地元のほうでやられているということでした。

もともと県青協（宮城県青年団体連絡協議会）が中心になって長くやってきているものです。各地方でやって、各地方でやったものを県で、全国ということで、長い歴史に培われているものです。時代の流れ、続けるということが大事なんだと思いました。

私は大崎しか見なかったんですが、今年は高文祭の関係でしょうか、高校生が非常に出ていました。何度か見に行かせていただいているのですが、親子連れでの参加とか、ステージ発表とかは世代を超えている。そこで見ながら、自然に時間を共有する。

これまでの話し合いの中でも、青年の活動がうんぬんと課題として出てきましたが、有り難かったのは、実行委員になっている方は地元の青年の方。地元の仕事を持っている方が実行委員長さんをやられていて、あいさつをしたりしたと。そういうものはやはり非常に大事なことだなということを改めて感じさせられましたし、青年たちの活動がまったくないわけではないと。県青協もそれをサポートするために大変頑張っていらっしゃるということを感じたりしました。これは今日の直接的な話題ではないですが、青年の地域活動の一環として話題提供させていただきました。

鈴木委員さん、どうぞ。

(鈴木正博委員)

・私は宮城生まれの宮城育ちです。県南ですが、相対的に「宮城県は？」と聞かれたこともなかったし、ずっとそのまま生活してきました。

自分の今回の公募をした経過をお話しします。

来年、戊辰戦争150年の節目なんです。宮城、東北は、歴史的にはどちらかというと反中央集権という形で捉えてきた。今回の公募のときの小論文も、そういった形でお示した経過があります。

後進性と言うと語弊があるのですが、今回の震災についても後進性。岩手、宮城、福島ということで、東北という大きな括りからすれば後進性。復興も6年目を過ぎて、新聞紙上では予算がだんだん削減されている形となっています。震災という時間軸もありますが、広い宮城の中ではコミュニティという形を自助努力で、行政等の支援も受けなくてコミュニティ

をつくったという経過のところもいくつかあるでしょうし、私は知らなかったのですが、行政によらない自治公民館というくくりもあるようです。

示されている時間軸も含めて、自助共助的なコミュニティづくりをする事例があれば、それも一つの例として普遍化、共有化する。何かしらの影響がある意見書にすればプラスになるのではないかというふうに思います。

とりとめのない話でした。

(澁谷議長)

・ありがとうございました。

あとはよろしいですか。どうぞ、齊藤委員さん。

(齊藤委員)

・先ほど田中委員が言われたことから思ったんですけど、「みやぎらしい」という部分です。

2008年の岩手・宮城内陸地震の話を読まれたと思います。そのときは沿岸部の人助けになって、今度の東日本大震災のときには逆に内陸部で、という話があったと思うんです。こういう文書に出てくるコミュニティだったり地域であったりというのを、どういう範囲で考えるかということとも若干関わってくるんですが、地域を越えた総合性、あるいは募集性、お互い様ということなんです。

地域の中のお互い様というのももちろんあると思いますが、地域を越えたお互い様がこれだけ短い間につくられた。2008年から2011年ですから、3年くらいの間にそういうものがつくられたということは、ある種「みやぎらしさ」ということの一つでもあるのかなということを感じました。

例えば、災害があったときの支援という意味で言えば緊急性、すぐにとということになるんですが、「紡ぎ合う」ということはもうちょっと時間を掛けるプロセスがあると思うんです。時間を掛けるプロセス、時間を掛けたプロセスというものを積み重ねているからこそ、何か緊急事態のときに即座に動ける部分がある。これは地域づくりの中で言われている点であります。両方の側面、紡ぎ合うということの大事さもおそらくあるでしょうし、何か有事のとき、災害が起こったときに即座にとということも出てくるのかなということを感じました。

(澁谷議長)

・ありがとうございました。

はい、どうぞ。星山先生。

(星山委員)

・いろいろ「みやぎらしさ」を出していたださっていますが、同時に、今日の資料2の2ページ目、白板の写真の上の①のところ、「1回目～3回目会議」の中で、『社会教育は、地域づ

くりをはじめとした地域課題の解決に対する根っこの部分になる非常に重要なものである』という共通の認識」, これをもっと前面に出していったほうがいいのではないかという気がするんです。「1回目～3回目会議」とここに書いてありますから, もちろん前回の資料の中にもそのことが載っています。今日の資料の1ページ目だけを見ると, 社会教育なのか何なのかわからない。こういうテーマにして, その出発点にあるのは社会教育。社会教育がそもそもこういう役割を持っている。そこに「みやぎらしい」というものが入ってくるとどうなるか。そういう流れのほうが分かりやすいし, 主張しやすいのではないかと思います。

だから, 2ページ目ではなくて, ぜひとも1ページ目の「設定の理由」の中にこういうものをきちんと入れていく。そのほうが, 今各委員さんから出していただいたものが生きてくる気がするんですけれども。

(澁谷議長)

・ありがとうございました。とてもいい意見をいただきました。

今のお話と, 先ほどの社会教育という視点を忘れないことが大事なんだというお話とは, 共通するものがある。ぜひ次の段階でこのこと, 「社会教育は」ということを前面に出していただくような組み立てをお願い申し上げたいと思います。

あとは, 私からのお願いでございます。前にも確認させていただいたんですが, 今日の押さえの中で「人づくり」「人つなぎ」という言葉が出ていました。ぜひ事務局として押さえ, 「審議テーマ設定の理由」のところにそういう視点を入れていただきたいと思います。

確か坂口委員さんは, 前回「人づくり」の話が出たときに, 「人をつくる人の人づくり」という表現をされたと思いました。今日は御欠席ですけれども, ひょっとしたらこれは「リーダー育成」という観点なのか。そのお話も出ましたが, 今度はさりげなく「何気ない人たちだっているよ」と。「ガンガン引っ張っていく人たちだけが人づくり, 地域人材ではないのではないかと。もう少し広く押さえたほうが」という御意見なども出された気がいたします。「人づくり」あるいは「人つなぎ」という表現で出ていますが, そういった視点もぜひこのところの中に入れていただければ有り難いということが, 第一点目のお願いでございます。

第二点目のお願いでございます。これは齊藤委員さんから最初に出たことですが, これから先の地域づくりの拠点は公民館が柱になってくると思います。「みやぎらしいコミュニティづくり」の事務局(案)の中の「新たな活動の創出」。言葉尻を捉えるわけではないです。新たな活動をしているのももちろん大事ですが, もうすでにやっている, 取り組んでいる題材の視点もこの中に組み込んでいただければ有り難いというふうに思いました。

前回, 確か星山委員さんからのお話の中でも出たような気がしますが, 公民館というものは職員, 人の専門性といった観点であって, 地域づくりのための専門性については社会教育はもともと持っていない。そういう認識を確認すべきではないかというお話をいただいたことが, いまでも心に残っております。

そういったところも含めた形で、このところに新たに組み込んでいただければ有り難いと思います。話があちこちになりますが、NPOとか社会教育団体ではない団体にも、すでに取り組んでいるたくさん事例がございます。そういったものも、この答申の中に含めた形で示していくことが大事なのではないかということを考えておりました。

大変まとまりのない話でございました。

では、時間もないようでしたので、一つ確認でございます。審議のテーマ及び設定の理由につきましては、今日出された「世代を超えて紡ぎ合う みやぎらしいコミュニティづくり」という設定でよろしいでしょうか。これをまず確認したいと思います。

次に、事務局のほうからお話が出ましたが、サブテーマについてはもう一度、これからテーマ案の見直しをしていただくことになると思います。「世代を超えて紡ぎ合う」ということ、特に「みやぎらしいコミュニティづくり」ということについて、今日出たことを事務局のほうでまとめていただいて、焦点を合わせた形で御提案いただくことになると思います。それを踏まえた上で、ひょっとしたらサブテーマは少し変わるかもしれない。変えなければならぬというふうになるかもしれませんが、とりあえず今日のところはメインテーマの押さえという、委員の皆様共通の方向で進めさせていただいてよろしいか。そのところを確認させていただきたいと思います。

よろしいでしょうか。

(「はい」という声あり)

それでは、テーマといたしましては、「世代を超えて紡ぎ合う みやぎらしいコミュニティづくり」ということで決定させていただきます。ただ、一つ、押さえといたしまして、次回、「みやぎらしいコミュニティづくり」にもう一度焦点を合わせた形で絞り込んでいくということをお願い申し上げたいと思います。

予定された時間より少し早いような気がしますが、皆様からたくさん御意見をいただきました。第34次の宮城県社会教育委員の会議の審議のテーマを、「世代を超えて紡ぎ合う みやぎらしいコミュニティづくり」に設定させていただきたいと思います。

それでは、これを受けまして、審議の柱について事務局から説明をお願いいたします。

(事務局；菅原社会教育専門監)

・審議の柱について2,3点出させていただき予定で資料3を用意しておりましたが、話し合いの中でメインテーマを決めていただいたところ、それについての宿題がたくさんあったと考えております。まずは「世代を超えて紡ぎ合う」。さらに一番大きなものとしては、「みやぎらしいコミュニティづくり」はどうあるべきかというところをきちんと掘り下げないと、審議の柱が見えてこない。事務局といたしましては、この3つについてお話をいただくのは少し早いと考えたところでございます。

よって、今、委員さん方からたくさん意見をいただきましたが、それをまとめます。「みやぎらしいコミュニティづくりはこうだ！」というものを皆さんの総意としてまとめさせていただきますながら、柱をつくっていく。今度はそういう作業が出てまいります。今、事務局でも内容を整理している段階でございますので、話し合いの内容について予定が変わることがあると思います。事務局としてもいい方向に向いていければというふうに考えております。いろいろと御協力をいただくことになるとは思いますが、よろしくお願ひしたいと思います。その辺りをお諮りいただければと思います。

(澁谷議長)

・はい、分かりました。資料3ということで用意はされていましたが、なかなか難しいなと思ひながら伺っていました。とてもしなやかな対応をしていただきまして、ありがとうございます。

いま、事務局側からお話があったような進め方をさせていただいてよろしいでしょうか。

(事務局；菅原社会教育専門監)

・ただ、少しの時間しかありませんけれども、柱として「これだけは」というものがもしありましたらお示しいただけると、私どもも大変参考になると思つたところでございます。

(澁谷議長)

・分かりました。

今日は資料3についての具体的な説明はないのですが、一応、こういう形で出ております。これまで話したことの柱として、「ここだけは出してほしい」「出すべきだ」というような委員さん方の御意見がございましたら、どうぞこの場で自由に出していただければ有り難いと思ひます。

はい、どうぞ。杉山委員さん。

(杉山委員)

・「審議の柱について」の真ん中の部分に、「地域づくりの拠点としての施設」と。建物のことが取り上げられています。コミュニティということ意識して、パッと浮かぶのは町内会による組織。それをイメージするのですが、ここは人材と施設と仕掛け。組織という捉え方の観点はなくてもいいのか。たとえば、宮城県だけだと思ふんですけど、学区を中心とした学校防災連絡協議会みたいなもの。すでに各地区で組織されつつある既存の組織を取り込みながらというのは、どうお考えになっているのか。

(齊藤委員)

・今おっしゃった点はまさにそう思ひます。1番目の柱の人材を、リーダーであったり、裾

野の今まで参加していない人や組織的なことも含めて捉えるのかどうかというと、ある。人という意味では、人と組織は地続きですから。

2番目は、今まさにおっしゃった点です。地域づくりに施設、そういう場とか空間は確かに必要だと思うんですけど、主体もあるはずなんです。町内会であったり、NPOだったり、いろいろ主体はあると思いますけれども、その部分を人材育成に含めて考えるのか、それとも地域づくりの場としたいみたいな立て方をするのかということ、整理をしておいたほうが良いということを思います。

(澁谷議長)

・これを見ると確かにそうですね。組織ということをお調べいただきたいと思います。

そのほか、どうぞ。よろしいですか。

このあとは「深め方」になるのですが、私はぜひ調査をお願いしたいと思います。審議会では「人づくり」という観点、人の活用ということの調査です。よその県で社会教育主事派遣制度で進めているところは多分ないと思います。社会教育主事をどのような形で発掘して、それをうまく活用しているか。事例の調査などが今後入ってくると大変有り難いし、個人的にも知りたいと思います。

把握されているのかもしれませんが、派遣の制度が国からなくなったときに、県が2分の1、市町村で2分の1を負担するという県もあったような気がします。専門性というふう考えたときに、社会教育主事だけがすぐに浮かんでしまっただけでは狭いかもしれませんが、そのようなことも知りたいと思っています。

あとは、地域づくり等に寄与している例として、社会教育領域の公民館あるいはさっきもお話ししたNPOとか民間団体とかの活動状況。さまざまな組織が既に活躍していると思いますので、社会教育の手の中にない団体の活動状況。地域づくりに関与しているものを調査してまとめていただければ、「人つなぎ」を考えるきっかけとして有り難い。いいものができるかもしれないなど思ったりしておりました。

すみません、私だけ勝手にたくさんしゃべりました。あとはよろしいですか。

それでは、「審議の深め方について」です。今まで出てきたかもしれませんが、「審議の深め方について」を事務局から説明をお願いいたします。

(事務局；吉田社会教育支援班課長補佐)

・今まで何点か出てきたと思うのですが、審議テーマに迫るため、地域における社会教育の現状と取組状況成果・課題を把握する必要があると考えております。今後、あり方、提言につなげるために各種調査を実施したいと考えておりますが、現時点での事務局としての押さえはこのようなところでございます。今議長のほうからお話が合ったとおりに、御覧いただくと「こういったところが必要ではないか」というところが出てくると思いますので、それをもう少し整理させていただいて、次回以降、お示しする形になっていくかと思います。よ

ろしくお願いいたします。

(澁谷議長)

・資料4で、案として、これから先、議論を深めていくための現地調査とかアンケートに取り組んでいきたいということが出ました。これにつきましても、各委員の皆様方、どうぞ次回までに「このようなことはどうだろうか」ということでお考えいただいて、お話しただければ大変有り難いと思います。

このことについて、何かございませんでしょうか。よろしいですか。

それでは、本日はテーマの案が決定しまして、これからの審議についてたくさん御意見を頂戴いたしました。事務局の吉田さんが頭を悩ませる日々が3日間くらい続くことになるかと思いますが、今回もよろしくお願い申し上げたいと思います。これからも御協力をよろしくお願いいたします。

続いて、「ハ 報告」に入ります。

委員の皆様から報告はございませんか。

事務局からの報告はございますか。

(事務局；吉田社会教育支援班課長補佐)

・ございません。

(澁谷議長)

・はい、分かりました。

以上で「議事」を終了いたします。

(司会；上原社会教育支援班長)

・議事、大変お疲れさまでした。ありがとうございます。それでは、「連絡」のほうに入らせていただきます。

はじめに、次回の開催について連絡をいたします。

(事務局；吉田社会教育支援班課長補佐)

・次回ですが、ゴールデンウィーク明け早々に開催したいと考えております。皆様の御都合等を伺いながら、4月の早い時期に決定していきたいと思っております。いつものようにメールとかファックスをお送りします。記入欄に御回答いただいて、それを調整していきたいと思っております。よろしくお願いいたします。なるべく早めに決定したいと思っております。

場所は、行政庁舎あるいは自治会館。もしくは漁信基ビルになってしまうかもしれません。会議室等の空き状況も見ながら考えていきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

(司会；上原社会教育支援班長)

・今の件について何か。「ゴールデンウィーク明け早々はなかなか厳しい」とか,そういうことはよろしいでしょうか。日程的なこともありますので,ぜひ御協力をお願いいたします。

それから,第4回会議録につきましては,会議録確定版として公開させていただきますので,御了承いただきたいと思います。

併せて,連絡をさせていただきます。

(事務局；吉田社会教育支援班課長補佐)

・チラシをお配りしました。美術館で「ルノワール展」を開催中がございます。ぜひ御覧いただければと思いますし,何かの機会に「今やっていますよ」とお声掛けいただければうれしく思いますので,よろしくをお願いいたします。

(司会；上原社会教育支援班長)

・よろしくをお願いいたします。

それでは,以上をもちまして第34次(第5回)宮城県社会教育委員の会議を閉会いたします。どうもありがとうございました。